

活用効果評価結果

公開版

令和4年度

関東地方整備局 新技術活用評価会議

NETIS情報	開発目標	省力化、経済性の向上、安全性の向上																							
	新技術登録番号	TH-190001-VE	区分	工法	有用な技術の位置づけ	活用促進技術																			
	分類	基礎工 - 場所打ち杭工 - ダウンザホールハンマー工																							
	新技術名	S・RXリーダーレス工法																							
活用効果評価	比較する従来技術(従来工法)	リーダーを用いたダウンザホールハンマー工法																							
	新技術の概要及び特徴	本技術は、油圧式リーダーレス型基礎機械で施工するダウンザホールハンマー工で、従来はリーダーを用いたダウンザホールハンマー工で対応していた。本技術の活用により施工性の向上、コスト削減、安全性の向上が期待できる。																							
活用効果評価	所見	<p>【優れていた所】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クレーンの組立、解体作業およびクレーン作業を省略できるため、経済性、工程に優れる。</li> <li>・一連の作業を油圧式リーダーレス型機械1台で行うことが可能で、機械との接触事故を低減できるため、安全性に優れる。</li> <li>・作業機械が小型化したこと、またクレーンの配置を省略したことで、工事スペースに余裕が生まれるため、施工性に優れる。</li> </ul> <p>【劣っていた所】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>																							
	次回以降の評価に対する視点と評価の必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査表及び施工状況より技術特性が確認でき、継続調査の要件に該当しないため、情報種別記号を「-VE」とする。</li> </ul>																							
	留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象土質:砂質土、礫質土、粘性土、岩塊・玉石、軟岩、中硬岩、硬岩。</li> <li>・設計杭径:170~580mm(580mm以上でも深度及び柱状図からの判断で対応可能)。</li> </ul>																							
	活用効果調査表における改良点及び要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし。</li> </ul>																							
参考	対象工事	1	法面補修工事 (従来技術: リーダーを用いたダウンザホールハンマー工法) 施工者選定型(契約後提案)																						
		2	法面補修工事 (従来技術: リーダーを用いたダウンザホールハンマー工法) 施工者選定型(契約後提案)																						
		3	法面補修工事 (従来技術: リーダーを用いたダウンザホールハンマー工法) 施工者選定型(契約後提案)																						
		4	トンネル補修工事 (従来技術: リーダーを用いたダウンザホールハンマー工法) 発注者指定型																						
		5	橋梁下部工事 (従来技術: リーダーを用いたダウンザホールハンマー工法) 施工者選定型(総合評価技術提案)																						
		6	斜面対策工事 (従来技術: リーダーを用いたダウンザホールハンマー工法) 施工者選定型(契約後提案)																						
		7	築堤工事 (従来技術: リーダーを用いたダウンザホールハンマー工法) 施工者選定型(契約後提案)																						
		8	防護柵工事 (従来技術: リーダーを用いたダウンザホールハンマー工法) 施工者選定型(契約後提案)																						
		9	防災工事 (従来技術: リーダーを用いたダウンザホールハンマー工法) 施工者選定型(契約後提案)																						
		10																							
		11																							
		12																							
		13																							
		14																							
		15																							
		16																							
		17																							
		18																							
		19																							
		20																							
活用効果調査結果	項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	項目の平均(点)	従来技術(従来工法)(点)		
		R1	R2	R2	R3	R3	R3	R3	R3	R4															
		経済性	B	B	B	B	B	B	B	B	B													B	C
		工程	B	B	B	B	B	B	B	B	B													B	C
		品質・出来形	C	C	C	C	B	C	C	-	C													C	C
		安全性	C	C	B	B	A	B	C	B	B													B	C
		施工性	B	B	B	B	A	A	B	B	B													B	C
		環境	C	C	B	B	-	C	C	-	C													C	C
		その他																							
		総合評価点	B	C	B	B	B	B	B	B	B													B	
今後、当該技術を活用出来る工事に活用したいか	今後是非活用したい	84%																							
	活用を検討したい	11%																							
	場合によっては活用することもある	5%																							
	技術の改良を強く望む	0%																							
追跡調査の必要性	追跡調査	各項目における判定																							
		A 従来技術より大幅に優れる																							
		B 従来技術より優れる																							
		C 従来技術と同等																							
D 従来技術より劣る																									
不要																									

